

●インド農民が「生まれ」によって獲得し付与されるカーストと宗教。それらを文化資本と読み解くことによって、人々がいかに戦略的に生を実践しているかを分析。

〈女神の村〉の民族誌

現代インドの文化資本としての家族・カースト・宗教

京都文教大学 杉本星子 著

本書では、一九九〇年代半ばの南インドの農村地帯において、その地方の有力農民であるコング・ヴェッラーラ・カーストの人びとが、村の女神をシンボルとして村落コミュニティを想像し創造し、さらに、それを足がかりに村を越えた広い地域社会のローカルな神々と結びつき、コング・ナードゥというカーストの故郷としての「くに」空間を想像し創造することを描く。そして、それがいかにカーストを实践 (Do Case) し、親族を实践 (Do Kinship) し、そしてヒンドゥー教を实践 (Do Hindu) しているのかを明らかにしながら、現代インドにおける家族・親族、カースト、宗教を「生まれ」によって獲得される文化資本という視点から再考してみたいと思う。

……第三章では、村の人々の生活空間が、村の寺院や町の寺院、地方都市の寺院にお参りをするることによって拡大し、それぞれの寺院における神々との結びつきを媒介にして農民たちの親族ネットワークが形成されるとともに、コング地方の二四ナードゥというヴァーチャルでありながらリアリティある「くに」という民俗空間がつくりだされていることを明らかにする。

第四章では、第一に、コング・ヴェッラーラの「血縁関係」が、系譜の連鎖に基づくというよりむしろ、地域の女神寺院との結びつきのなかで「出自集団」として構築されるものであること、第二に、「生まれ」によって獲得される文化資本を共有するジャーティ(caste)としてのローカル・カーストが、地域の血縁ネットワークや婚姻ネットワークを基盤に構築されるが故にダイナミズムをもつこと、第三に、コング地方の「くに」とは、農民たちが、文化資本、社会関係資本、経済資本といったさまざまな種類の資本を獲得し、そうした資本を戦略的に相互転換しながら生きてゆくローカルな生活世界であることを論じる。

(はじめに「より」)

●目次

はじめに

序論

第一章 コング地方の村

- 一 コング地方の農民／二 コングの地方の農業／三 ティンダル村／四 村の農業と生活の変化

第二章 ティンダル村の家族・親族・カースト

- 一 家族とイエ／二 親族関係と婚姻ネットワーク／三 村のカースト間関係

第三章 神々の空間

- 一 村人と寺院／二 マーリヤンマン女神の「むら」／三 アツパッター女神の「クラン」／四 マドゥラカーリーヤンマン女神の「まち」／五 ムルガン神の「くに」

第四章 現代インドの家族・親族・カースト・宗教

- 一 構築される「血縁関係」／二 ジャーティのダイナミズム／三 寺院の象徴権力／四 現代インドのカースト

結び 「くに」と国家

あとがき
文献 索引

体裁

- ・A5判・上製カバー
- ・二八〇頁
- ・三七八〇円
- (本体三六〇〇円)

税込み定価

発行所 風響社

114-0014 東京都北区田端四一-一四 九
電話〇三(三二八)九二四九
http://www.fukyo.co.jp

注 文 書	
流通センター取扱品	
販売	風響社 TEL: 03-3828-9249
税込み	三七八〇円
部	

地方出版

杉本星子 著
〈女神の村〉の民族誌
現代インドの文化資本としての家族・カースト・宗教
ISBN4-89489-022-4 C3039 ¥3600E

〔お客様控え〕

ご氏名 _____

ご住所 _____

お電話 _____

月 日